



Victorian Certificate of Education

2010

SUPERVISOR TO ATTACH PROCESSING LABEL HERE

STUDENT NUMBER

Letter

Figures

Words

JAPANESE

FIRST LANGUAGE

Written examination

Monday 15 November 2010

Reading time: 11.45 am to 12.00 noon (15 minutes)

Writing time: 12.00 noon to 2.00 pm (2 hours)

QUESTION AND ANSWER BOOK

Structure of book

<i>Section</i>	<i>Number of questions</i>	<i>Number of questions to be answered</i>	<i>Number of marks</i>	<i>Suggested times (minutes)</i>
1	1	1	25	30
2	1	1	30	40
3	5	1	25	50
			Total 80	120

- Students are permitted to bring into the examination room: pens, pencils, highlighters, erasers, sharpeners, rulers and any printed monolingual and/or bilingual dictionary in one or two separate volumes. Dictionaries may be consulted during the reading time and also during the examination.
- Students are NOT permitted to bring into the examination room: blank sheets of paper and/or white out liquid/tape.
- No calculator is allowed in this examination.

Materials supplied

- Question and answer book of 19 pages, including **Assessment criteria** on page 19.

Instructions

- Write your **student number** in the space provided above on this page.
- Write all your answers in the spaces provided in this question and answer book. The spaces provided give you an idea of how much you should write.

At the end of the examination

- Hand in this question and answer book at the end of the examination.

Students are NOT permitted to bring mobile phones and/or any other unauthorised electronic devices into the examination room.

This page is blank

This page is blank

TURN OVER

SECTION 1 – Listening and responding**Instructions for Section 1**

You will hear one text. It will be played twice. There will be a pause of approximately five minutes between the first and second playings of the text. You may make notes at any time.

Listen carefully to the text and then answer the questions in **JAPANESE**.

TEXT 1**Question 1**

a. コート・ドール三田は、どのようなレストランとして知られていますか。

b. 齋須さんがいう、プロとしての当たり前の姿勢、とは何ですか？

c. 齋須さんの若い時の苦勞を四つ、書き出さない。

- ---
- ---
- ---
- ---

d. ケレさんは齋須さんの将来にとってどんな役割を果たしたと思いますか。

You may make notes
in this space.

- e. 齋須さんは、なぜ、『我慢や苦労は必要だ』と主張しているのですか。齋須さんの主張をまとめなさい(約 150 字)

Total 25 marks

You may make notes
in this space.

**END OF SECTION 1
TURN OVER**

SECTION 2 – Reading and responding

Instructions for Section 2
 Read the two texts and then answer the question in 900–1100 *ji* in **JAPANESE**.

TEXT 2

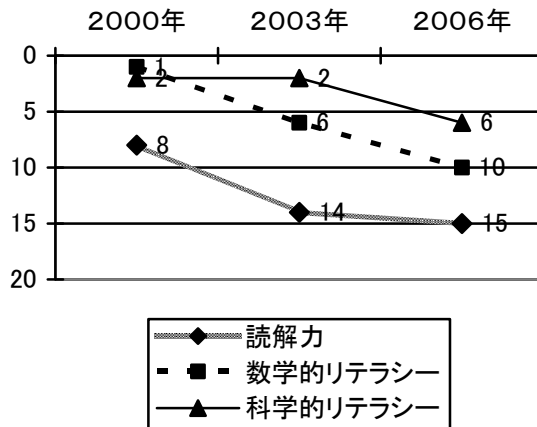
若い世代の国語力の低下は、すでに 90 年代から現れており、論文が満足に書けない大学生が増えてきたことが指摘されていました。しかし、OECD(経済協力開発機構)が3年ごとに行っているPISA(国際学習到達度調査)の2003年の結果、日本の15歳の生徒は、文章表現力や思考力を測る「読解力」が、41カ国地域内の加盟国30カ国のうち14位で、前回(2000年)の8位から急落したことが明らかになると同時に、数学リテラシーも、1位から6位へ転落し、教育界に、いわゆるPISAショックを起こしました。さらに2006年には、「読解力」が15位に落ちました。

この翌年に行われた、33大学・短大の学生約1万3000人を対象とした日本語基礎力の調査では、国立大生の6%、私立大生の20%、短大生の35%が、「中学生レベル」と判定されています。

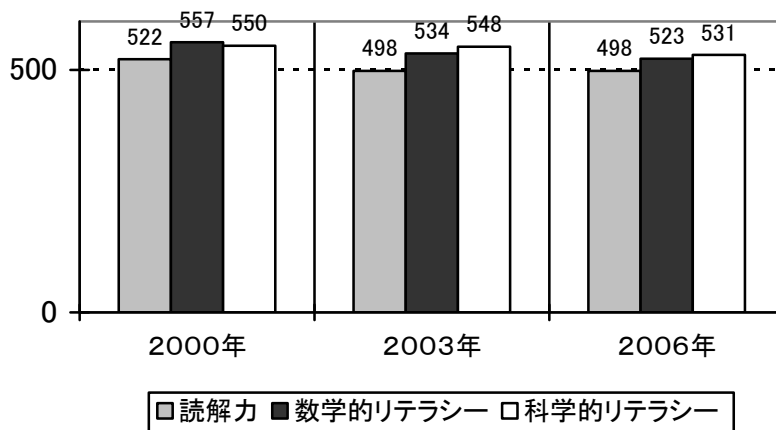
PISA調査によって明らかになったことは、日本の高校一年生は特に自由記述問題が不得意で、白紙で提出する解答者が約4人に1人もいました。

You may make notes in this space.

PISA調査結果 (単位は順位)



点数での成績の変化 (OECD平均は500点)



(参考: 朝日新聞 2009年9月4日)

この結果を受けて、2002年から実施された『ゆとり教育』が反省され、文部科学省は、2009年4月1日から、全国の小学校・中学校において、新しい学習指導要領を先行実施しました。

また、9月からは、新しく言語力検定が実施されました。言語力検定は、国際的に通用する言語力——すなわち、読み、書き、考え、伝える力——の育成を目指し、毎年3・4級(中学・高校レベル)と5・6級(小学校3年生—6年生レベル)で実施されます。

言語力検定について、秋田大学教育文化学部の阿部昇教授は、「21世紀を生きる子供たちにとって、質の高い言語能力は必須のものである。それなしに、子供たちは自らの人生を切り拓くことはできないし、主権者として社会を創造・変革することもできない。ただし、これまでのような受身の読み・書き能力、話し・聞く能力だけでは不十分である。文章・作品・言論などを吟味・批判する能力、そして、これに基づき自らの考えを発信する能力がぜひ必要である。言語力検定は、それらの能力を見つけるために有効なものといえる。」と述べています。

一方、NHKは、2009年11月に4回にわたって特集番組『言語力が危ない』を放映しました。

次に、その主な点をいくつか挙げます。

1. 欧米各国を中心に、学力をはかるものさしとして、『言語力』という言葉が広く使われている。

日本では、言語力が低下して、話ができない、きちんと作文が書けない、といった事態が起きている。

2. 慶應義塾大学言語文化研究所の大津幸雄教授は、「なぜ自分の考えを整理して、論理的に伝えられないのかは、子供のときに交わした会話の量に関係があり、小さい時のいろいろなやり取りや、大人や友達とのやり取りがないと、どうやれば自分の思いをうまく伝えられるかを練習する期間がなくなる。」と述べている。

3. 言語力不足は、思いがけない分野にも影響を及ぼしている。2006年ワールドカップ予選で日本チームは全敗したが、その反省報告書は、「試合中に仲間に自分の言いたいことを伝える能力の不足」を挙げ、「それを克服するためには言語力に力を入れるべきである」と述べている。

4. 東京都世田谷区は、区全体が「日本語教育」特区に認定され、2007年4月から新教科「日本語」の授業を始めた。教科書には、文科省認定区教育委員会が作成した「教科用図書」を使い、小学校では一年生から古典を学ぶ。中学校では「哲学」と「表現」の二冊を使い、「哲学」では考えることを、「表現」ではさまざまに自己を表現することを学ぶ。その考えの基礎となっているのは、「知力や豊かな人間性、社会性の基盤の一つは『ことば』であり、母語の力をつける事が重要であるとの認識である。

(「母語は思考と表現の基盤——世田谷区がなぜ『日本語』の授業を始めたか」 文芸春秋編 『日本の論点』 2008 pp506—509)

You may make notes
in this space.

TEXT 3

国語はすべての知的活動の基礎である。(藤原正彦著 『祖国とは国語』より)

情報を伝達する上で、読む、書く、話す、聞くが最重要なのはいうまでもない。これが確立されなければ、他教科の学習は思うようにならない。理科や社会は無論のこと、私が専門とする数学のような分野でも、文章題などは解くのに必要なことだけしか書かれていないから、一字でも読み落したり読み誤ったりしたらまったく解けない。問題が意味をなさなくなることもある。かなりの読解力が必要となる。海外から帰国したばかりの生徒が良くつまづくのは、数学の文章題である。読む、書く、話す、聞くが、全教科の中心であることは明らかだ。

それ以上に重大なのは、国語が思考そのものと深く関わっていることである。言語には、思考した結果を表現する道具としてだけではなく、言語を用いて思考するという面がある。物事を考える時・・・頭の中では、だれでも言語を用いて考えを整理している。(p15-16)

国語力の低下は、知的活動力、論理的思考力、情緒、祖国愛の低下を同時に引き起こしている・・・不況が何十年続こうと国は滅びないが、この四つの低下は確実に国を滅ぼす。祖国とは国語なのである。(p34) (一部表現をやさしくしたところがあります。)

Question 2

あなたは、海外で勉強している高校生として、国語力・言語力の重要性、およびそれを高めるにはどうしていきたいと考えていますか。テキスト 2 と 3 の内容を踏まえた上で、地域コミュニティーのニュースレターに発表する記事を書きなさい。題は自分で付けなさい。(字数： 900-1100字)

Total 30 marks

You may make notes
in this space.

The image shows a large rectangular area containing a grid of 20 rows and 16 columns of small squares. Each square is formed by a solid top and bottom line and a dashed left and right line, resembling a handwriting practice grid.

A large rectangular area containing a grid of 20 rows and 20 columns of small squares. Each square is defined by a solid line on the left and right sides and a dashed line on the top and bottom sides. This layout is typical for a writing exam to provide a guide for letter height and placement.

A large rectangular area containing a grid of 20 rows and 20 columns of small squares. Each square is defined by dashed lines, creating a writing template for a 20x20 grid.

A large rectangular area containing a 20x20 grid of dashed lines for writing. The grid is composed of 20 columns and 20 rows of small, empty boxes. Each box is defined by dashed lines, and the entire grid is enclosed within a solid black border.

SECTION 3 – Writing in Japanese**Instructions for Section 3**

Answer **one** question in 1000–1200 *ji* in **JAPANESE**.

Space is provided on the following page to make notes.

Question 3

あなたはオーストラリアから帰国後、日本の学校に行っています。そして、オーストラリアと比べて、日本の社会では、学校も含めて、先輩・後輩の関係が強いと感じています。今度、社会科の授業で、その良い点と問題点についてあなたの意見を口頭で発表することになりました。その発表原稿を書きなさい。

OR

Question 4

日本では、結婚年齢が上がリ、また、結婚しない若者が増える傾向にあります。この現象の背景と社会に与える影響について、新聞の『読者の声』欄に投稿する文章を書きなさい。

OR

Question 5

あなたは、高校生向けの雑誌で、大学進学時に一人暮らしをするか自宅通学するか迷っている学生が多いことを知りました。一人暮らし、自宅通学それぞれの長所・短所を含め、学生たちにアドバイスをする記事を書きなさい。

OR

Question 6

「うそから出た、まこと」ということわざがあります。このことわざが結末となる物語を書きなさい。これは国語のクラスの宿題です。

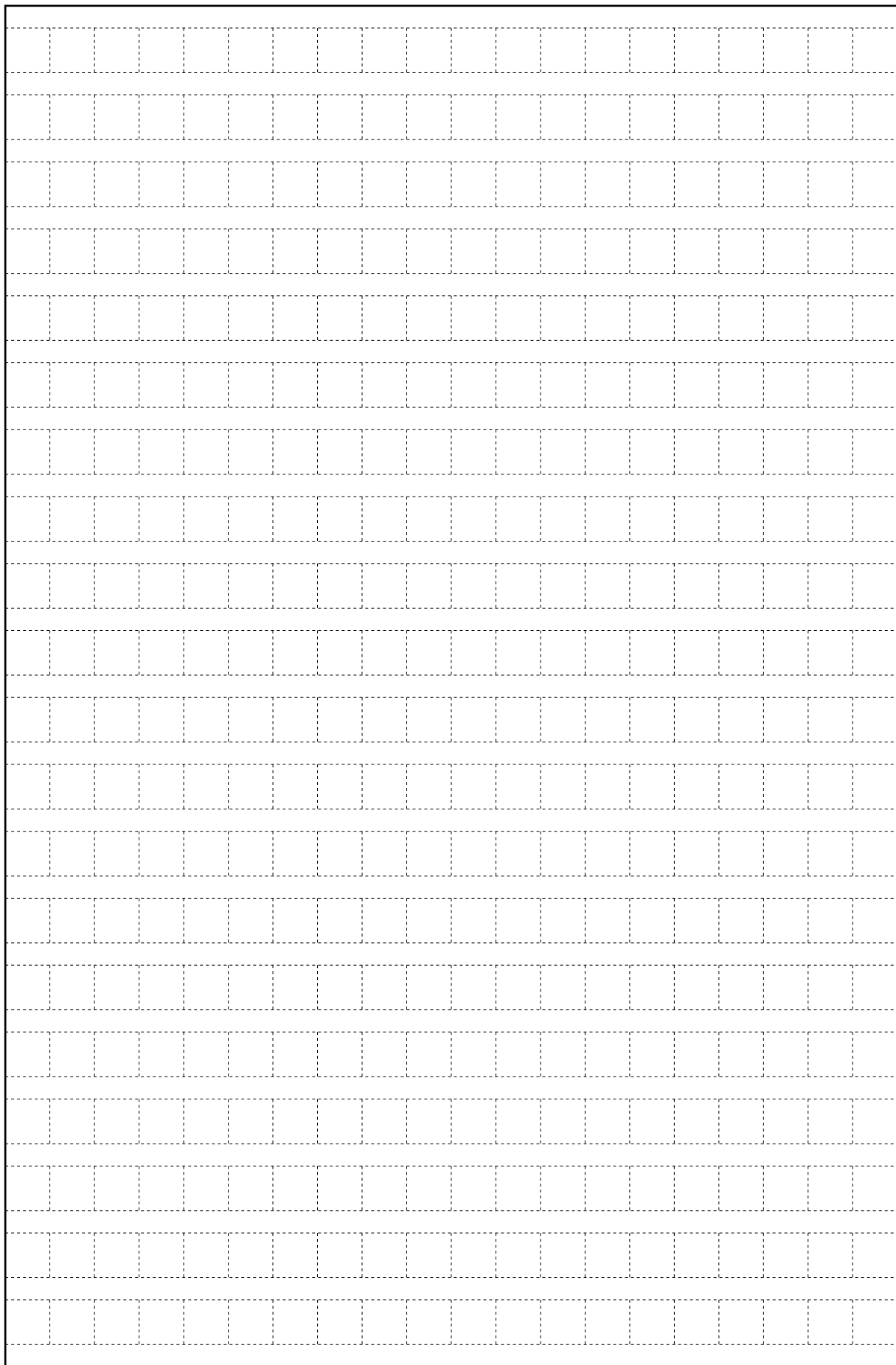
OR

Question 7

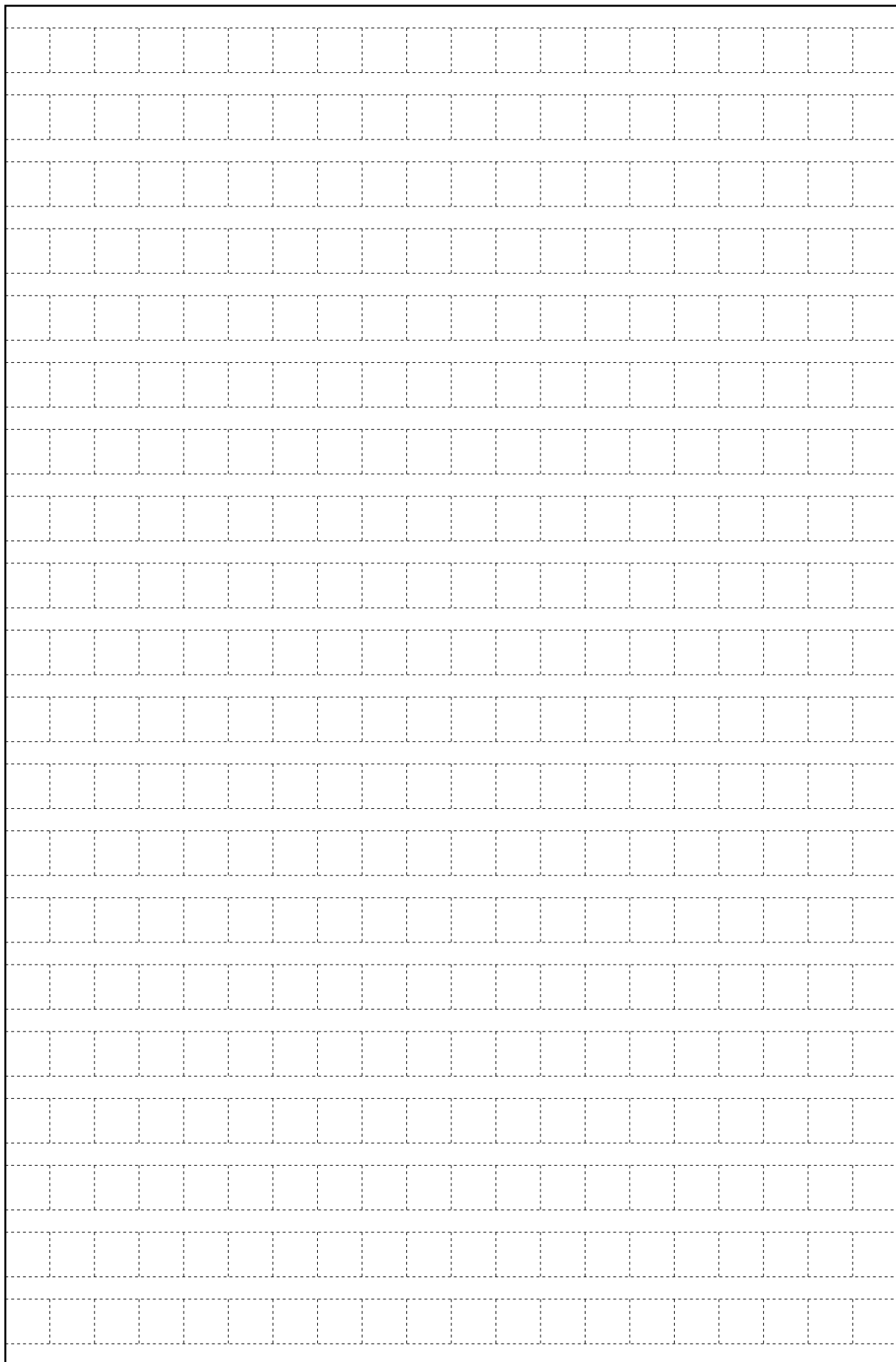
あなたは宇宙飛行士です。宇宙探検に旅立って数日後、スペースシップの外から何者かに見張られていると感じました。このことについてのある日の日記を書きなさい。あなたは、これを、ミステリーマガジンに発表するつもりです。

Total 25 marks

You may make notes in this space.



The form consists of a large rectangle filled with a grid of dashed lines. The grid is composed of 20 columns and 20 rows of small squares, suitable for handwritten responses.



Assessment criteria

Section 1: Listening and responding

- the capacity to understand general and specific aspects of texts
- the capacity to convey information accurately and appropriately

Section 2: Reading and responding

- the capacity to identify and synthesise relevant information and ideas from the texts
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy, range and appropriateness of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)

Section 3: Writing in Japanese

- relevance, breadth and depth of content
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)
- range and appropriateness of vocabulary and grammar